Srush

データ統一 クラウドで、 御社の事業はもっと飛躍する。















































会社名	株式会社Srush
代表者	代表取締役CEO 樋口 海
事業内容	データ統一クラウド「Srush」の企画・開発・運営・販売/データコンサルティング事業
設立	2019年11月
資本金	5億円(資本準備金含む)
本社	〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目4番1号日本橋一丁目三井ビルディング5階
株主	ジャフコグループ株式会社、DEEPCORE(SoftBankグループ)ニッセイキャピタル(日本生命グループ)、マネーフォワードなど

ツール比較サイトやメディア等にも弊社のお取り組みをご評価いただいております。



日経BP社が運営するマーケティング専門メディア『日経クロストレンド』が 発表する「未来の市場をつくる100社【2025年版】」に選出



ツール比較サイトにて ユーザー満足度と認知度の高い製品に贈られる最高位【Leader】を BIツール部門・ETLツール部門の2部門で受賞



総務省の後援を得て、2015年からは総務大臣賞の授与も行われいる 『ASPICクラウドアワード』 で【DX貢献賞】を受賞 データ分析には「ヒト・モノ・カネ」の課題があり、それぞれにデータ人材の不足、技術ハードルの高さ、膨大なコストが問題となっています。経験豊富なデータ人材による「コンサルティングサービス」で人材の課題を、ノーコードでデータ分析基盤を構築できるオールインワンツール「データ統一クラウドSrush」で技術の課題を、さらに「5つの無制限プラン」でコストの課題を解決します。

リーズナブル

Reasonable

業界初の5つの無制限でデータ分析を 定額料金で実現可能!全社展開しても 定額料金でデータ活用が進みます!

業界初!

5つの無制限プラン

どんなにデータ分析しても 定額料金!

スピーディー

Speedy

データ分析に必要な機能を備えた オールインワンデータ分析ツールによ り、即座に御社専用のデータ基盤のご 利用が可能!

Srush 3つの価値



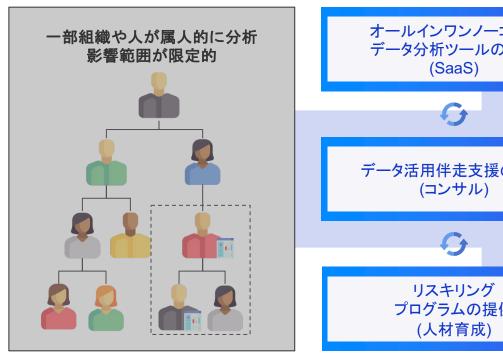
サクセス

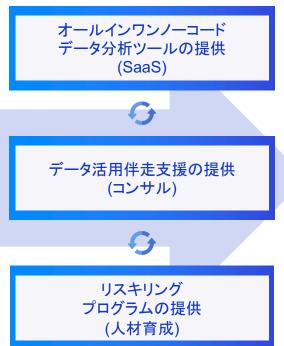
Success

Srushデータコンサルタントチームが 御社専属のデータ活用人材として、 データ活用の成功をお約束します!



データを誰にとっても身近にすることで、組織と人とデータをコラボした最強のデータドリブンな組織が生まれ、飛躍 的な成長が実現できると信じております。







飛躍的な成長を実現する、データドリブンな組織

データ人材要らずでデータ活用が出来るデータ統一クラウドSrushは、データ分析に必要な機能を全て揃え、かつ誰でも扱えるようにノーコードを徹底し、データ分析の全てプロセスに対してワンストップでのサポートを提供しております。業界初の【ライセンス数・データ連携数・データ容量・ダッシュボード数・チャットサポート】の5つが無制限になる革新的プランでデータドリブン経営を実現できます。



当社は、他社サービスとの連携を積極的に進め、ユーザーにとってシームレスで効率的なデータ統合環境を提供しています。特に国産サービスとの連携を重視しつつ、レガシーシステムやオンプレミスなどのクラウド環境にないデータも取りこぼすことがないよう開発することで従来のサービスとの差別化を図っています。



業界初の【ライセンス数・データ容量・データ連携数・ダッシュボード数・チャットサポート】の5つが無制限になる革新的プランで、データドリブン経営へのお取り組みをご支援いたします。

ユーザーライセンスも無制限 全従業員に配布しても追加費用0円!

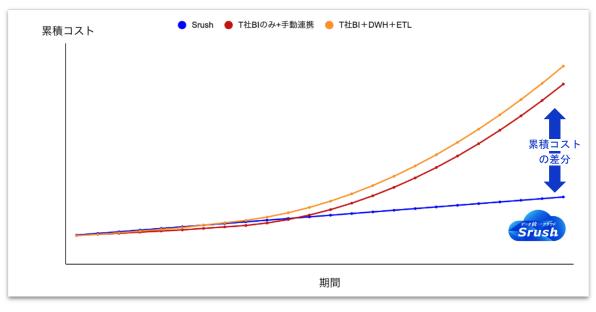
データ容量も無制限! **1
Srush独自の圧縮技術により
ビッグデータも無制限!

データ連携も無制限! **2 300種類以上のシステムと繋ぎ放題!

ダッシュボード数も無制限! グラフ数も無制限! 見える化し放題!

サポートも無制限!**3 困ったら質問し放題、チャットし放題!

データ量やライセンス数増加によって料金が変動するソリューションと比較し、 Srushの無制限プランの累積のコスト削減効果は大きくります。



※1 エントリープランの場合100GB(圧縮後)まで ※2 標準コネクタのみ ※3 平日日勤帯(平日10時~18時)



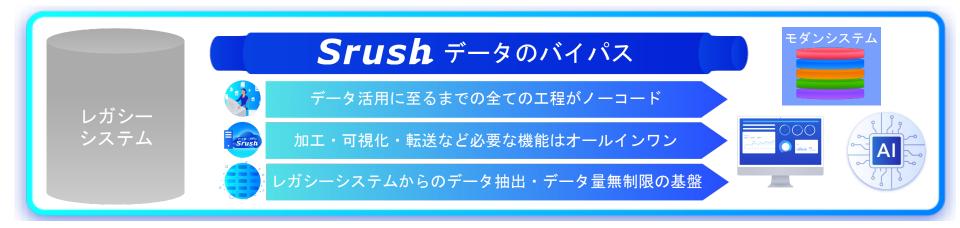
|データ利活用に向けた企業の選択肢①及び②

企業は以下の2つの手段から選択する必要があるが、データ人材不在によりいずれにせよデータの利活用は進まない。

- ①新システム移行 :会計系がメインのシステム移行となるため、新基幹システムとフロント系システムでサイロ化は未解消
- ②既存システム維持:データの利活用にあたって既存システムの改修が高コストで優先度劣後していき、モダン化も進まず



Srushはノーコードで非IT人材でもレガシーシステムからデータを抽出し利活用もできる、加えて新システムに移行する際のデータ成形も全ての工程において誰でもできるため、どちらの手段に対しても有効な打ちになり得る。



Srushはデータ利活用に向けた全てのハードルを下げるプロダクト

「システム刷新・移行、データ活用の技術開発」

・人的リソースネックを技術で解消: データ活用に至るまでの全て工程がノーコード

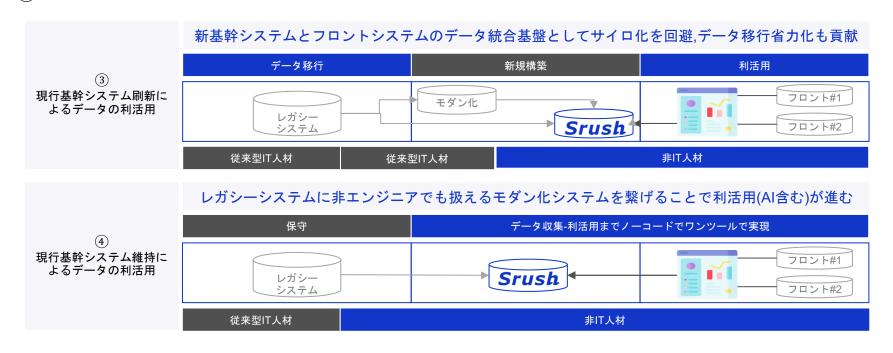
・システム刷新・移行手法の自動化・省力化・高度化技術 ニカス・可視化・転送など必要な機能はオールインワン

現行のレガシーシステムのデータのバイパス等を実現する技術等 : あらゆるデータを抽出・データ量無制限の基盤

|データ利活用に向けた企業の選択肢③及び4

レガシーシステムからデータを抽出し、<u>モダンシステムへのデータ移行</u>・<u>既存システムのデータ利活用</u>・<u>AI活用</u>など、 あらゆる目的実現に向けたデータのバイパスとして誰でも利用できるツール「データ統一クラウドSrush」

- ③新システム移行 : モダン化に向けたPJTの傍らでデータ利活用を進め、データ移行のデータ成形/フロントデータ統合に利用
- (4) 既存システム維持:既存環境にとらわれずにデータの利活用が低コストで誰でも進めることが可能



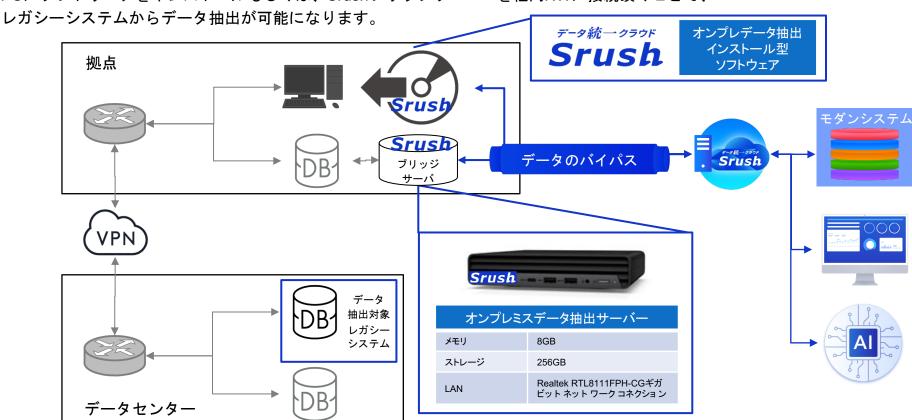
「サマリー:モダン化・データ利活用に向けた4つの手段」

一般的には①及び②がスタンダードなソリューションという理解で御座いますが、データの利活用においては障壁がある状況です。そのため、データ利活用に向けて企業の新たな選択肢として、③もしくは④を検討する必要があります。

手段•目的	ヒト	モノ	カネ	データ活用に対する障壁
①現行基幹システム 刷新によるデータの 利活用	新システム:従来型IT人材 データ移行:従来型IT人材 データ利活用:データ人材	SAP S/4 HANAなど データ転送MWなど	高コスト	システム移行後も新基幹システム とフロント系システムでサイロ化が 進む可能性が高い
②現行基幹システム 維持によるデータの 利活用	保守:従来型IT人材 データ利活用:データ人材	既存システムの保守 既存システムの改修	高コスト	レガシーシステムに対するレガシー 運用(高コスト運用)により、データ の利活用が進まない
工机 口丛				
手段•目的	ヒト	モノ	カネ	解決策
3現行基幹システム 刷新によるデータの 利活用	新システム:従来型IT人材 データ移行:従来型IT人材/非 エンジニア データ利活用:非エンジニア	モノ SAP S/4 HANAなど データ統一クラウド Srush	低コスト	解決策 新基幹システムとフロント系システムのデータ統合基盤としてデータ のサイロ化を回避、データ移行の 省力化にも貢献

[|]参考:データバイパスソリューション(オンプレミスの場合)

Srushデータバイパスソリューションのオンプレミスデータ取得イメージとなります。 PCにソフトウェアをインストールもしくは、Srushブリッジサーバーを社内NWに接続頂くことで、







レガシーシステム刷新にともなうリスクをデータバイパスで回避 安心安全にデータ活用基盤の構築が実現



導入前の課題

- ・データ活用基盤を構築したいが、同時にレガシーシステム刷新プロジェクトが進行中
- ・社内にエンジニアリングリソースが不足していた
- ・そのような状況の中で、レガシーシステムデータの移行方法の検討に苦慮していた



選んだ理由

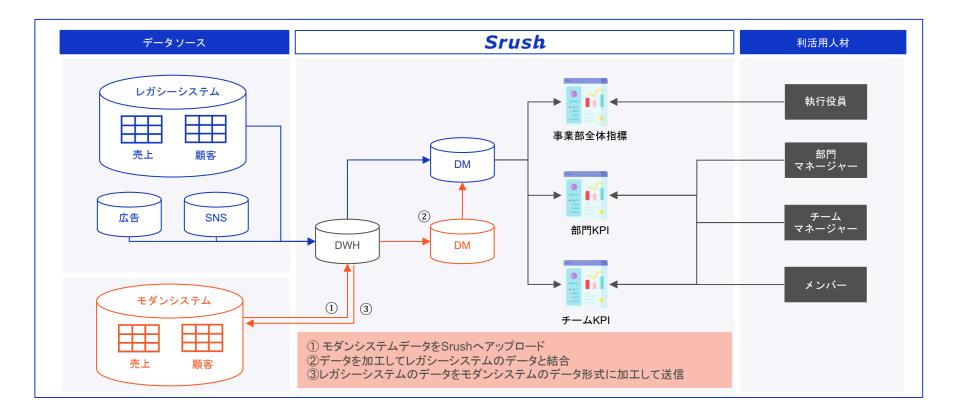
- ノーコードで大量データを加工することができる。
- コンサルティングによる支援を受けることができる。
- データ人材教育プログラムがある

000

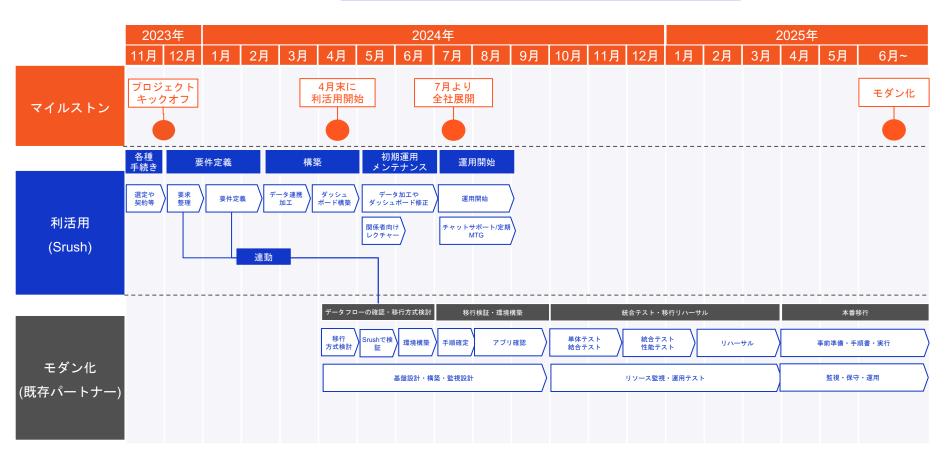
導入後の 成果・効果

- ・トラブルを発生させずに<mark>データの移行</mark>を実現することができた。
- ・<mark>非エンジニアでも容易に</mark>レガシーシステムのデータを、モダン化システムのデータベース形式に変換できた
- ・利活用を見据えた全社展開教育がスピーディーに実行できた

レガシーシステムのデータをSrushに移行して事業部の<u>データ利活用を早期実行。</u> 運用が安定した後に、モダン化システムを導入して、<u>Srushのデータと結合することでレガシーシステムのリプレイスを実現。</u>



以下、プロジェクトのスケジュールです。<u>利活用を目的としたモダン化に依存しないスケジュール</u>で実行しております。





レガシーシステムとの連携を低コストで実現。

複数店舗の大量データを店舗別、エリア別に可視化できるデータ活用基盤を構築



- ・手作業中心で集計を行っており、複数の担当者が同じ作業を繰り返していた
- ・多角的な分析を実施するためのデータ活用基盤を構築するが、レガシーシステムとの連携に難あり
- ・自社でデータ活用基盤を構築することの難易度とコストが高い



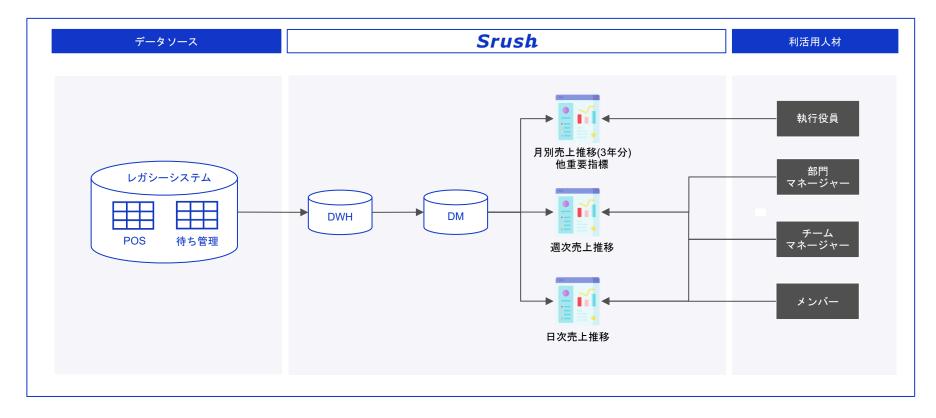
選んだ理由

- ・レガシーシステムとの連携が容易かつ低コストで実現できる
- ・データ量や分析量によって料金が変わらず固定なこと(店舗数が多いので助かる)
- ・作業代行を超え、自社ビジネスを理解した上でコンサルティング支援を実施できること

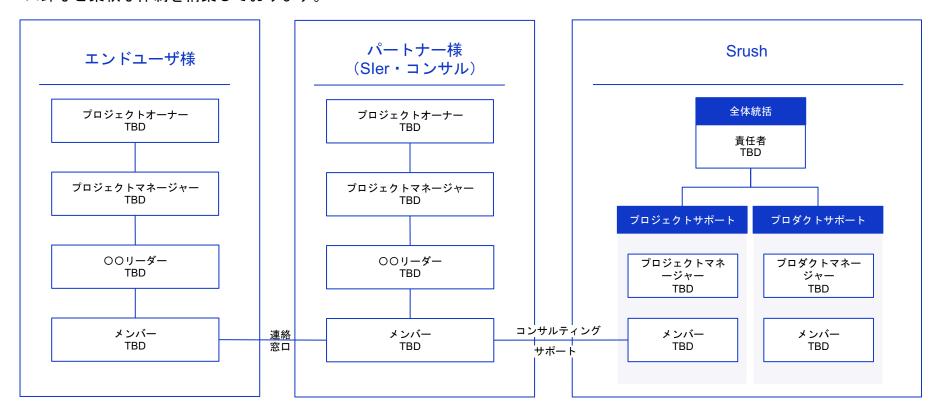
000

- 導入後の 成果・効果
- ・低コストかつ現場で運用しやすいデータ活用基盤構築が実現
- ・時間帯別や顧客属性別の売上データもリアルタイムに近い状態で集計
- ・経営と現場が同じ数字を見て意志決定から実行までがスムーズに行える

<u>レガシーシステムとノーコードで連携</u>、各店舗のPOSデータと待ち管理データ(いつ、どれぐらいの人が、どれぐらい待っているか)の日次モニタリングを実現。<u>レガシーシステムの改修では実現出来なかった、売上/待機時間/カット完了時間などの</u>各管理範囲に必要な時間の粒度でモニタリングが可能になった。



大手企業様もパートナー様を通じてSrushをご利用頂いております。<u>既存システムの理解が深いパートナー様と連携することで、エンドユーザ様のデータ利活用の成功確度もあがります。</u>契約形態はパートナー様ご要望に基づき、ライセンス卸など柔軟な体制を構築しております。



Srush